

## 10 現職教育

自己実現につながる豊かな言語力の獲得を目指して  
～対話的な学びを効果的に取り入れた国語科学習～

### (1) 主題設定の理由

#### ① 本校の教育目標より

本校は教育目標として「自ら学び、心豊かで創造性に富む子供を育てる」を掲げている。さらに、目指す子供像として「自ら学び想像力の豊かな子」「人格を尊重し、互いに敬愛の心をもつ子」「健康安全に心がけ、明るく生活する子」「よりよい社会実現のため、周りの人と積極的に関わろうとする子」を挙げている。

本校ではこれらの教育目標を具現化するために、「自尊感情の育成」を本校教育の中核に据え、温かい人間関係づくりを重視し、一人ひとりが生き生きと活動できる学級集団づくりに努めてきた。また、基礎学力の充実をはかると共に、一人ひとりが課題をもち、その課題に主体的に取り組む解決していこうとする態度を育てている。人とのつながりの中で自分も他の人も尊重できる自尊感情を育むことを教育の中心とすることで、よりよい社会を切り拓いていく力を身に着けることが大切であると考えている。「自尊感情の育成」は本校の教育の大前提であり、学級運営においても重視している。

子供達を取り囲む様々な社会の変化の中で、子供達一人ひとりがたくましく生きて欲しい。そのためにも、「自尊感情の育成」を学びの土台とした上で、子供達自身が、主体的に色々な人と進んで関わろうとしたり、自ら考え解決しようとする「生きる力」を育むことが肝要であると考えている。そして、子供一人ひとりが様々な課題に直面した時に、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという汎用的な学びが、「生きる力」の基となるのではないだろうか。

#### ② 子供の実態より

本校の子供たちは、自然に恵まれた環境の中で明るく伸び伸びと生活しており、何事にもまじめに取り組む良さをもっている。学校行事では学年が一丸となって取り組んだり、様々なペア学年との活動で異学年と交流し合ったりして生き生きと学校生活を送っている。

本校では、昨年度まで「自尊感情の育成を目指して - 書くことを効果的に取り入れた国語学習 -」をテーマに研究を積み重ねてきた。その結果、子どもたちは、書くことに対して抵抗なく取り組むことができるようになった。令和3年度全国学力・学習状況調査で、無回答率が、0%に近かったことからその成果がうかがえる。言葉・漢字に関する正当率も高

かったことから、学年に応じて「接続詞」や「段落分け」などの国語科における知識・能力が少しずつ身についてきていると言える。また、自分の考えに根拠をつけて話そうとする姿も見られるようになってきている。

しかし、課題に対して主体的に関わり、自分と他者の意見や考えを比較したり、新しい気付きを得たりする等の対話的な学びに対する姿勢が身に付いている児童は少ない。全国学力・学習状況調査のアンケートの中では、自分から積極的に学習に取り組んでいるかという質問に対して、「そう思う」と答える児童が少なかった。さらに、文章を読んで自分の考えや意見を書いたり、要約したりする問題の正答率も低かった。書く力は高まってきたが、目的を意識して、中心となる言葉や文を見つけて要約したり、またそれに対する自分の考えを、根拠をもとにまとめたりする力はまだまだ不十分であると言える

これらのことを踏まえて、まずは自分の考えを表現し、友達の考えを聞いて話し合いを深めることのできる力を身につけることが必要である。課題に対して主体的に関わり、解決することに喜びを感じ、対話的な学びを通して自らの考えを広げ、深めていこうとする子供を目指したい。そこで、今年度は「自己実現につながる豊かな言語力の獲得を目指して～対話的な学びを効果的に取り入れた国語科学習～」を研究テーマに設定した。

本校が目指す「自己実現とは」

・自分のままで、自分の個性を生かしながら、自分らしい生き方をすること。

今年度、獲得させたい言語力

・自分の考えや判断を、根拠をもって説明する力

※「豊かな言語力」に関しては、本年度、研究授業等の実践を通じ、本校児童に身につけさせたい力、伸ばしていきたい力を見極め、模索を続けていく。

昨年度までの成果と課題

☆「書くことを効果的に取り入れた国語学習」の取り組みによる成果

- ・書くことに対して抵抗感なく取り組むことが出来ている。
- ・学年に応じて「接続詞」や「段落分け」などの力が少しずつついてきている。
- ・自分の考えに根拠をつけて話すことが出来るようになってきている。

★今後の課題

- ・自分の考えを表現し、友達の考えを聞いて話し合いを深めることができる語彙力を身につける。
- ・課題に対して主体的に関わり、解決しようとするねばり強さを身につける。

☆目指す子供の姿

- ◎課題に対して主体的に関わり、解決しようとする子供になってほしい。
- ◎対話的な学びを通して自らの考えを広め、よりよく生きる子供になってほしい。

↑

この対話的とは、形式的に授業で「対話している」ということではなく、友達との協働、教師や地域の人との対話、先人の考え方を手掛かりに考えることなどのこと。

## (2) 研究の内容

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進。

### ① <授業の流れの構築>

単元や題材など内容やまとまりの中で、学習を見通し、①教師が教える場面と子供たちが考える場面をどのように組み立てるか②グループなどで対話する場面をどこに設定するか、③振り返る時間と内容の吟味を考え、実現を図る。

### ② <読み取る力が付く対話的活動>

どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを、①個人で考えるとき②グループ又は全体で対話するとき、それぞれの「見方・考え方」を明確にした授展開を構成する。また、子供の思考や発言がそれぞれの「見方・考え方」に結び付けられるように、教師が子供の発言を価値つけていく。

### ③ <みんなが参加する対話的活動>

子供たちが学びの深まりを実感できる対話的活動を効果的に取り入れる。そのためにも、発達段階に応じた子どもたちでの話し合いの進め方や、お互いの発言を大切にしている態度を育成する。

### ④ 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図る。

## (3) 研究の方法

### ① 研究授業を行う。

- ・ 全6回
- ・ 協議会では「授業を見る視点(学年より)」と本年度の「研究の内容(2)①～③」を中心に協議する。
- ・ 協議会の形式については、授業内容に応じて KJ 法、ワールドカフェ方式、全希望を重視するものとする。

### ② 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に向けて取り組む。

- ・ 読書習慣の定着を図るための環境作り
- ・ 話し方・聞き方の約束の共通化(低・中・高で積み上げられるように)
- ・ 話し合い活動の仕組みの構築
- ・ 学び合う中で培ったことを表現するための音読や朗読指導

音読の仕方…学年や教材に応じて様々な音読を取り入れる。

・一斉読み・追いかけて読み・時間読み・一文読み・役割読み・タケノコ読み

- ・ 思考を深めるためのノート指導
- ・ 主に説明文で獲得した「見方・考え方」を生かした活動の工夫

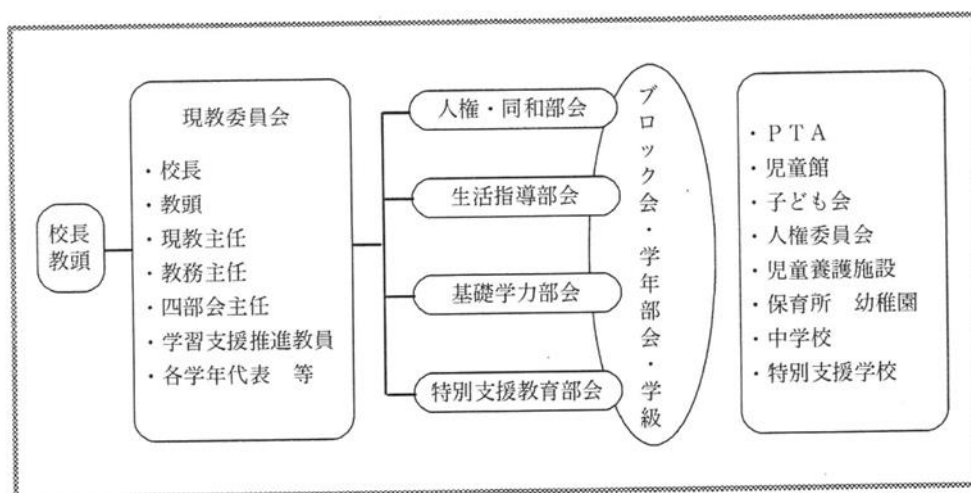
③ 「安原っ子」の時間を設ける。

- ・ 現教や職員会議の最初に毎回「安原っ子」を設ける。
- ・ 「特設安原っ子」を5月と2月に設定し、子供達の様子について交流する。
- ・ 気になる子供の様子を交流するとともにその子を全職員でみていく。

(4) 研究の組織

◆研究体制

- ・ 「人権・同和部会」「生活指導部会」「基礎学力部会」「特別支援教育部会」の四部会を中心に、低・中・高学年部会。学年部会等と連携しながら研究に取り組む。



【組織図】

◆関係機関・協力期間との連携

① 家庭・地域との連携

PTA 活動・本渡子ども会・地区 PTA 活動に協力・援助し、保護者との連携によって地域の教育力を高める取り組みを進める。(学級懇談会・地区懇談会・教育講演会・人権に関する学習参観など)

② 学校間の連携

東中学校ブロック・紀北支援学校・各研究団体と連携し、校内の人権・同和教育の取り組みを進める。

③ その他関係機関との連携

必要に応じて県子ども・女性・障害者相談センターや少年センター等の関係機関と連絡を取りながら指導にあたる。また、児童養護施設との連絡・交流を深め、協力体制を確かなものにし、施設児童に対する指導を効果的に実施する。